

スーパージュニア選手育成プログラム 2017

～特別プログラム（東京遠征研修）～

「スーパージュニア選手育成プログラム 2017-体験プログラム」に参加した選手が、国内トップクラスの大会や日本代表選手が合宿する施設等の視察研修を通して、将来のスポーツ活動の目標設定の一助となり、国民体育大会の広島県代表やオリンピック出場を目指すアスリートに育つことを期待して、平成 30 年 3 月 24 日(土)から 25 日(日)の 1 泊 2 日の日程で特別プログラムを実施した。

今回は、6 回の体験プログラムとファイナルトライアルの全日程に参加した 6 年生男女 11 人とその保護者が参加した。



3 月 24 日(土)、朝 8 時に広島駅に集合した 11 組の親子は、期待に胸を膨らませて新幹線に乗りこんだ。

1 月のファイナルトライアルの後、久しぶりに顔を合わせたメンバーだったが、同じ目標に向かって、同じプログラムを経験した仲間同士、新幹線の中で男子 6 名、女子 5 名、お父さん 3 名、お母さん 8 名、それぞれが東京に向けて話が弾んでいた。

東京駅到着後、貸切バスで駒沢体育館に移動し、日本ハンドボールリーグの女子プレーオフ(準決勝)の広島メイプルレッズ対ソニー SC 戦を観戦した。前半 2 点リードを許し後半戦に突入した広島メイプルレッズは、後半戦に入り一時 6 点差まで広げられたが、終盤に追いつき、延長戦に持ち込んだ。応援も最高潮に達した中で、延長戦の前後半ともにリードした広島メイプルレッズが翌日の決勝戦（対北國銀行）に駒を進めた。



観戦後は、東京タワーと浅草など、東京を感じる時間となった。ハンドボール観戦が延長戦になったことや交通渋滞などで、浅草に到着した時点で、すっかり日も暮れていたが、各親子がそれぞれに自由時間を満喫した。





3月25日(日)、東京都庁前で記念撮影の後、味の素ナショナルトレーニングセンターに向かった。

柔道、レスリング、ボクシング、フェンシング、体操、バレーボール、ハンドボールなど、日本代表選手などが合宿・練習する各競技施設を見学した。

昼食は、SAKURA Dining でアスリートと同じ食事を試食し、トップを目指すアスリートの食事の摂り方などを学んだ。





東京は桜が満開だった。解放された皇居内での花見を楽しむために集まった人の列の横を通り、東京駅に着いた。

待ちに待った1泊2日の特別プログラムもあっという間に時間が流れた。

参加した子どもたちは、4月から中学生になる。この貴重な経験を活かし、今後のアスリートとしての成長を期待したい。